久辺中学校　進路だより　No. 9　　令和3年9月3日　金曜日

Go to Next Stage

夏休みは充実していましたか。今回は感動する話を紹介します。何事も基本や型式は大切ですが、それを越えた個性もあります

感動・賞賛する行動

マニュアルを越えたところに感動がある

「マニュアルを越えたところに感動がある」と東京ディズニーランドの母体である株式会社オリエンタルランド相談役の堀貞一郎顧問はこんな話をしてくれました。
（※マニュアルとは、初心者のための手引書）

東京ディズニーランドにある若い夫婦が訪れました。そして、ディズニーランド内のレストランで彼らは「お子様ランチ」を注文したのです。もちろんお子様ランチは9歳以下とメニューにも書いてあります。子どものいないカップルに対しては、マニュアルではお断りする種類のものです。当然のごとく、「恐れ入りますが、このメニューにも書いておりますが、お子様ランチはお子様用ですし、大人には少し物足りないかと思われますので‥」と言うのがマニュアルです。

しかし、アルバイト（キャスト）の青年は、マニュアルから一歩踏み出して尋ねました。
「失礼ですが、お子様ランチは誰が食べられるのですか？」
「死んだ子どものために注文したくて」、と奥さんが応える。
「亡くなられた子供さんに！」とキャストは絶句しました。

「私たち夫婦には子供がなかなか授かりませんでした。求め続けて求め続けてやっと待望の娘が産まれましたが、身体が弱く一歳の誕生日を待たずに神様のもとに召されたのです。私たち夫婦も泣いて過ごしました。子供の一周忌に、いつか子供を連れて来ようと話していたディズニーランドに来たのです。そしたら、ゲートのところで渡されたマップに、ここにお子様ランチがあると書いてあったので思い出に・・・」
そう言って夫婦は目を伏せました。

キャストのアルバイトの青年は、「そうですか。では、召し上がってください」と応じました。そして、「ご家族の皆様、どうぞこちらの席に」と四人席の家族テーブルに夫婦を移動させ、それから子供用の椅子を一つ用意しました。そして、
「子供さんは、こちらに」と、まるで亡くなった子供が生きているかのように小さな椅子に導いたのです。

しばらくして、運ばれてきたのは三人分のお子様ランチでした。キャストは、　「ご家族でゆっくりお楽しみください」と挨拶して、その場を立ち去りました。

若い夫婦は失われた子供との日々を噛みしめながらお子様ランチを食べました。

このような行為は、マニュアル破りの規則違反です。しかし、東京ディズニーランドでは先輩も同僚も彼の行動をとがめません。それどころか彼の行為はディズニーランドでは賞賛されるのです。マニュアルは基本でしかありません。マニュアルを超えるところに感動が潜んでいるのです。

この出来事に感動した若い夫婦は、帰宅後に手紙を書きました。

「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているかのように家族の団らんを味わいました。こんな娘との家族団らんを東京ディズニーランドでさせていただくとは、夢にも思いませんでした。これから、二人で涙を拭いて生きていきます。また、二周忌、三周忌に娘を連れてディズニーランドに必ず行きます。そして、私たちは話し合いました。今度はこの子の妹か弟かをつれてきっと遊びに行きます」と言う手紙が東京ディズニーランドに届きました。

それはすぐに張り出され、ステージの舞台裏で出演の準備をするキャストに配られます。舞台裏ではキャストとして働いている多くの男女の若者が共感して泣くそうです。

でも、しばらくして先輩が号令をかけます。「涙はここ（舞台裏）まで、パーク内では涙は禁物。今日も日本中いや世界中の人が、ここディズニーランドに感動を求めて来ています。今日はどんなドラマを誰が創るのかな？それでは、みんな笑顔で準備を！」と。

ミッキーマウスの産みの親ウォルト・ディズニーがディズニーランドに求めたもの、それはお客が映画の世界に入り込み、一緒に感動を作り上げていくことでした。だから東京ディズニーランドではお客をゲスト（共演者）と呼び、従業員をキャスト（出演者）と呼びます。

多様な見方の大切さ

進路だよりNo4で、「夢実現に何が必要か」を載せました。そこでは、学校で何を学ぶかという内容で、勉強以外にもいろんな能力を身に付ける必要があります。その中で『多様な見方、考え方の素地を養う、あれが悪い、これのせい、とならないものの考え方』を中学校で学ぶことが大切です。

その一例です。

小学2年生の話です。学校の掃除時間、ある男の子がバケツに入った水を一人の女の子にかけました。ドバーッと。女の子は服がびしょ濡れです。泣いています。周りの子はすぐに先生に言いつけ、駆けつけた先生は女の子を保健室に連れて行き、男の子から話を聴こうとします。

「どうしてそんなことしたの？」

男の子は黙っています。男の子は黙秘を貫きます。困った先生は、その子を叱りつけます。それでも黙っています。

保健室で着替え、戻ってきた女の子はその様子を見ていました。女の子は先生を呼び、教室の外へ。
「…先生、私ね、おしっこもらしちゃったの」か細い声で先生に話しました。

あぁ、だから、あの子は何も話さなかったんだ。

先生は男の子を呼び、謝りました。

男の子のとっさの判断、素晴らしいです。考える力もっています。黙っている姿も凛々しいです。

女の子の正直さも素晴らしい。

先生の謝る姿もいい。

周りの子に目をやると、急いで先生を呼びにいった。これもいい。

大人になって、みんながこのことを笑いながら話せるようになるとなおいい！